

事業所名 ルームズ藤崎

公表日 2026 年 3 月 26 日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	法令で定められている以上のスペースを確保し、子ども達が安心・安全で過ごせる環境づくりをおこなっています。低学年と高学年に分けて活動をおこなう等工夫しています。	—
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	定められた人員配置基準に加え、加算要件を満たす人員配置を行っています。また、保育士、児童指導員はじめ、福祉分野の資格を保持するスタッフを配置し、行事やイベント、子どもの状況に応じ、臨機応変に対応しています。	適正に職員の配置はおこなっていますが、子ども達の特性や状況に応じても対応できるよう、さらなるスタッフの確保と、職員ひとりひとりのスキル向上も必要です。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	子どもに合わせた動線を意識し、安全面に配慮しています。利用スペースをはっきりと示しています。スケジュールなどは、視覚に訴える表示方法を工夫しています。	建物の構造上、車いすへの対応ができていません。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日の清掃を行い清潔感を保っています。また、発達段階や活動内容に応じ、低学年と高学年でスペースを分けておこない、物理的な密集を避けるだけでなく、各年代がそれぞれの活動に集中できる安全な環境づくりを行っています。	—
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	静かな場所が必要な際は、別部屋やパーティションで区切るなど工夫しています。臨機応変に使い分けできています。	—
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	業務改善の振り返りを各自おこない、子どもの支援記録などを記入する際、子どもの状況を共有しています。必要に応じて、支援方法について協議し支援の統一を図っています。	毎月の職員ミーティングにおいて、組織全体で課題検討と振り返りを行っています。欠席しているスタッフに対するフォローの工夫を行っています。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	年に一回アンケートを実施し、アンケート結果は職員間で共有し、課題点を改善できるよう努めています。	勤務年数の浅いスタッフやパートスタッフにも運営の仕組みを教育していきます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	2回/年の管理者との面談（人事考課）に加え、1回/月以上のミーティングで意見や要望を把握する機会を設けています。その内容を業務改善につなげるようにしています。	—
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	現在、第三者による外部評価は実施できておりませんが、客観的な視点での業務改善を行うため、ガイドラインに基づき、職員向けおよび保護者向けのアンケート（自己評価）を定期的実施し、その結果と改善策を公表しています。	今後は、客観的な評価による更なるサービス向上を図るため、機会があれば専門機関による評価も前向きに検討したいです。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	1回/月、組織全体で行う合同研修のほか、自治体や民間主催の幅広いテーマの研修に参加し得た知識をスタッフ間で共有しています。	—
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	ホームページで公開しています。保護者会での説明を実施し、お便りなどでもその内容に触れています。	—
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	利用開始時（契約書）及び5領域に基づいたアセスメントを実施しています。日々記録や半年毎のモニタリングなどを活用し、また、学校やご家庭の様子も踏まえて、計画を検討しています。	—

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	サービス計画が意識できるよう職員間でも共有し、全体で支援できるようにしています。また、日々の記録に良かった点、課題点を記録し、必要に応じてどのように対応していくべきか検討しています。	—
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	サービス計画が意識できるよう職員間でも共有し、全体で支援できるようにしています。また、日々の記録に良かった点、課題点を記録し、必要に応じてどのように対応していくべきか検討しています。	—
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	5領域に基づいたフォーマルなアセスメントと、日々の行動観察に基づき、言語・人間関係・情緒・体調・学習内容などを日々記録し、支援に反映させています。	—
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	本人・家庭・移行の視点から目標を設定し、ニーズに対応して支援を行っています。	地域支援については今後の検討課題です。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	事業所内のミーティングで、各自プログラム案を出し、全職員で協議し決定しています。	—
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	日々の活動は、「学習時間」「自由時間」「集団活動」に分類しています。毎日の「集団活動の時間」では季節や行事なども取り入れながら、音楽やアート、運動、食育など、支援員個々の専門的知識やスキルを活動に反映させ、プログラムが固定化しないよう努めています。	—
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	自由時間と集団活動での観察を踏まえて、専門的な支援につなげるようにしています。個別の活動は本人が楽しめるように工夫しています。	—
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	基本、子どもに関する情報共有や送迎の確認など、職員間で連携し支援に取り組んでいます。	休日や長期休暇中などでは、すぐに送迎に出なければならないスタッフもおり、そのような場合の工夫が必要です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	その日の支援の振り返りや気づいた点等は、日々の記録に記載しています。送迎などで実施できないこともありますが、可能なスタッフ間で当日の気づきについて話し合いを行っています。	送迎などで参加できない場合の工夫が必要です。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	その日の支援の気づき等は、日々の記録に記載し、共有しています。また、可能なスタッフ間で記録内容の振り返りを適宜おこなっています。	送迎などで意見が反映できない日がある場合の工夫が必要です。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	少なくとも半年に1回モニタリングをおこなない、計画の見直しをおこなっています。	—	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1	創作活動（工作やアート）を通じて成功体験を積み上げ、自己肯定感の向上を図っています。また、アートイベントや外出イベントを通じ、外部講師や地域住民の方々と関わる機会を設け、社会性や地域交流の場を提供しています。	地域交流の活動について、一人ひとりの成長過程に応じたステップアップを図れるよう計画的に取り組んでいきたいです。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	朝の会や帰りの会で発表する機会を設け、自分の意思を表明する「自己選択」の経験を積み重ねています。集団活動や余暇の時間では、子ども同士の関わりを促しつつも、最終的には本人の意思を最優先し、納得感を持って物事を進められるようサポートしています。	5領域の分野で活動を促すことが目的となっているのに、どの活動にも参加できない場合に本人の意思とのバランスに苦慮することがあります。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	児童発達支援管理責任者が中心ではあるが、子どもを多角的にアセスメントするためにもその子どものことを理解しているスタッフや専門的な支援を実施している職員が参加する場合があります。	—
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	自事業所内での支援にとどまらず、各方面の関係機関との連携をおこなうよう努めています。特に、学校の先生とはお迎え時に情報交換をおこなっています。	—
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	保護者を通して、学校の行事予定や下校時刻の確認はおこなっています。子どもに関する課題が大きくなった場合は、速やかに学校と連携を取り、情報共有や情報交換をおこなっています。	急な変更などで調整が不十分な場合もあるため、工夫が必要です。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	引継ぎ時の担当者会議や申し送り書を通じて情報共有をしています。さらに、事業所内においては支援に必要な内容は情報共有をおこない、職員間で認識のズレが生じないように、一貫した質の高いケアの実践に努めています。	—
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	6	現在、対象の児童は在籍していませんが、今年度の保護者会では、将来を見据えた切れ目のない支援を重視し、障害福祉サービス事業所の担当者による講話を実施しました。	—
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5	課題が大きくなってきた子どもについては、事業所単独で動くことなく、児童発達支援センターや相談支援員、学校と連携し、助言を受けるようにしています。	外部連携を担当していないスタッフにどのように教育していくか工夫が必要です。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5	近隣の公園の活用や施設へのお出かけ等は計画しています。また、同じ組織内の事業所との交流は積極的にを行っています。	地域交流の重要性は認識していますが、子どもの特性や心理的負担を最優先し、慎重に検討を重ねています。今後は、スモールステップでの交流から始め、段階的に地域との接点を持つ計画を策定していく予定です。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	参加はしておりませんが、要請があれば参加の検討をします。	研修などがあれば、参加を検討します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	連絡帳及び送迎時に加え、適宜面談時やメール及び担当者会議で子どもの様子について話し合い共通理解を持てるようにしています。	—
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	共働き家庭の支援として延長制度を設けています。また、保護者の要望・必要に応じた助言をしています。事業所での活動の様子をご覧になりたい保護者には、極力見学いただけるように調整をしています。今年度は、保護者会にて障害福祉サービス事業所の担当者による講話を実施しました。	—
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	2	契約時や支援計画作成時、内容の変更時に十分な時間をかけて説明しています。	変更や修正があった場合は、書面や口頭で伝えています。書面での伝達の場合は、確実に目を通してもらうための工夫（既読管理やリマインド）が必要です。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	支援計画書作成時に加えて、ご家庭より相談のあった時は、面談や電話などで意向を確認しています。	—
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	説明し同意を得ています。タイミング的に直接の説明が難しい場合は説明のメモ書きを添えたり、電話にて説明を行っています。	—
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	連絡帳、電話、対面など様々な方法で常時行っています。	—
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	年2回保護者会を開催し、保護者同士で交流を図れる機会を提供しています。	兄弟児も含めた交流を行えるよう検討したいです。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	窓口対応者、責任者を配置し、迅速に対応できるよう心がけています。緊急度の高いものや改善が必要な場合はスタッフ間や会社全体で協議し改善に努めています。	—
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	保護者会等の定例行事に加え、ブログやSNSを活用し情報発信をおこなっています。	—
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	漏洩の恐れにつながりそうな事例などがあれば必ず報告し、再発防止のため協議を行っています。	—
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	子どもに対しては絵カードや文字カードを使用しています。またご家庭によって、連絡や意思疎通の方法を変えたり、時間帯を工夫したりしています。	—
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	地域住民ではないが社会活動を通じて連携している方々に見学に来てもらっています。事業所内の活動を見てもらって、次の社会活動につなげるようにしています。	事業所内イベントに地域住民の招待はできていません。作品の発表などのために外部会場を借りた場合に、スモールステップでの交流（作品を通じた間接的な交流）から始め、段階的に地域との接点を持てるように検討したいです。	
非常	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	事故、災害、感染症などのマニュアルについて全体ミーティング等にて対応方法などの確認を行っています。安全計画の中で研修や訓練を計画し、定期的実施しています。	マニュアルをまとめたものを保護者に配布しているが、その内容のすべてを説明できるだけの時間確保が難しい現状です。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	BCPに沿った研修・訓練を実施しています。職員による避難手順や経路確認を行う等、非常災害の発生時に備えています。	—
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	契約時に確認することに加えて、日々使用する様式や連絡袋に工夫をして、いつでも確認できるようにしています。スタッフ間にも周知徹底をしています。	—
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	契約時に確認することに加え、クッキングなどのアレルギーに配慮しなければならない活動を実施する際は、毎回事前にお知らせをし再度状況のヒアリングをおこなっています。	—

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
時 等 の 対 応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全計画に基づいて行うと共に、毎月のミーティングにて、その内容を確認しています。今年度は、業者の方にも細かく確認いただき事業所内のメンテナンスも実施しています。	—
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	安全計画に基づいて行っています。計画に基づいて行われる訓練等は、事前に計画でお知らせするとともに、連絡帳やホームページにて情報発信をおこなっています。	計画は事前にお知らせしているものの、訓練は当日利用があった利用者しかその内容を体験していないので、体験していない子どもやご家庭にどのように周知するかは課題です。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハットを適切に作成し、毎月のミーティングにて、組織内で共有を図っています。ミーティングではケースワークの素材として活用し、再発防止に取り組んでいます。	—
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	計画に則り、研修を行っています。日々の支援の中で、虐待につながる芽がないか、常に意識し、その都度意見を出し合っています。	—
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	身体拘束適正化委員会を設置し、身体拘束の条件や実施した場合の報告、対応の検討を行う場を設けています。	基本的に、身体拘束は行っていません。